

木と共に歩む

福岡県久留米市

福岡教育大学附属久留米小学校5年

大津 聖空

木と共に歩むとはどういうことだろう

木はいくつもの時をこえている

そして新たな命を生む

まるで人間のように

その命のバトンをつないで

木は人生を歩いてゆく

人は木を傷つけてはならない

木を傷つけると人はほろびる

木があるからこそ人はいる

木と共に歩むとは

木と歴史を見て時を過ごす

ということではないのだろうか

木はこの世の歴史を見て来た

戦争やこの世の痛ましい歴史を

木も感情を持っている

喜び 悲しみ 怒り 苦しみ

心の傷を負ったこともあっただろう

例えば枝を折る ける 石を投げる

とても痛かっただろう

木だって生けるものだ

その生をなすものに

「死」

という出来事を与える

そしてまた

「生」

という出来事が与えられる

このことは人間も同じ

人間も木も

この世に生をうけたものは

この出来事をくり返している

この事を妨害しなければ

人は木と共に歩むかちが生まれる

人は木と共に歩まなければならぬ

「人よ 木とともに歩め」

という言葉を残すことで

未来はよりよいものになる

そう思って

生きていこう